

鉄 欠 乏 性 貧 血 —鉄分以外にも不足している造血成分—

東区・郡元支部
(デイジークリニック) 武元 良整

「健診で貧血を指摘されました」という訴えで来院の方に病歴を尋ねると2年前からとか、5年前から、時には20年来という方もおられます。鉄欠乏状態であっても仕事を休むことなく頑張る女性(貧血外来の98.4%は女性)が多いという事から「貧血大国・日本」¹⁾という本もあります。この現状は驚きでもありますが、貧血治療は内科医の責任でもあります。

今回は血色素(Hb)値が6.0g/dL以下の鉄欠乏性貧血7例についてご報告いたします。

症 例

Hb値が4.6g/dL, しかし、通常勤務できていた「鉄欠乏性貧血」の症例を提示します。

症 例：45歳女性

主 訴：易疲労感、動悸、息切れ。貧血治療希望

病 歴：健診で貧血を指摘され来院。2歳のころから、貧血の治療を繰り返していた。

背 景：職業はオペレータ、PC操作を終日。非喫煙・飲酒せず、身長156cm、体重49.1kg。

経 過：治療開始2週間後にはPC操作前に行う指先による静脈認証ができるようになった。

Hb：4.6の初診時には指先が冷たくて指紋認証ができるのに常に10分程度の時間を要していた。その後、婦人科にて子宮筋腫・子宮腺筋症と診断される。

貧血治療後は婦人科通院、ホルモン治療中。

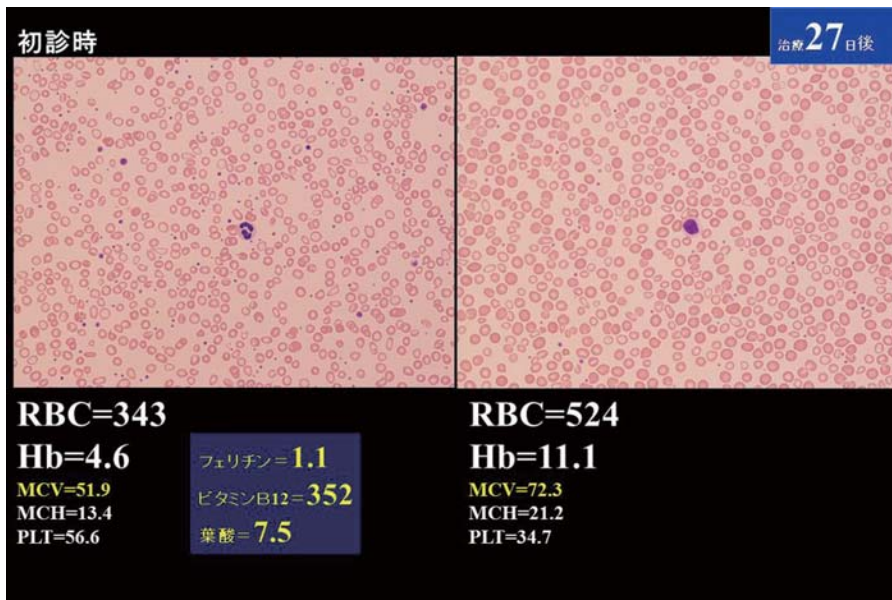


図1 治療前後の末梢血塗抹標本
(末梢血液画像は鹿児島市医師会臨床検査センター血液検査室へ依頼し撮影いただきました)

検査成績

末梢血検査：図1

CBC (complete blood count：全血球計算)

RBC：343万/ μ L, Hb：4.6g/dL, MCV (mean corpuscular volume：平均赤血球容積)：51.9fL, MCH (mean corpuscular hemoglobin：平均赤血球色素値)：13.4pg, PLT(血小板数)：56.6万/ μ L

図1は来院時と治療27日後の末梢血液像です。来院時は典型的な鉄欠乏性貧血の末梢血液像，小球性低色素性です。

治療により成熟赤血球の増加を認めます。

Hb値が6.0g/dL以下の鉄欠乏性貧血の7例

全例が「健診で貧血を指摘され来院」という理由でした。つまり，Hb値が6.0g/dL以下にもかかわらず，全員が通常勤務しています。長年の貧血症状があり，鉄剤内服困難の既往があり，静注による治療としました。また，血液生化学では，表1のようにフェリチン値だけでなく，造血に必須とされるビタミンB₁₂，葉酸も低値でした。ビタミンB₁₂は5年の貯蔵が可能で，葉酸の備蓄は3年間と教科書的には記載されています。裏を返せば3年から5年間の貧血歴があれば，ビタミンB₁₂，葉酸ともに消耗・消費の結果，その後，低下する事になります。丁度，悪性貧血症例をビタミンB₁₂単独で治療開始，1カ月後にフェリチン値

が低下し，鉄剤補給が必要になるのと同じ理由です。

ビタミンB₁₂の低下は表2の症状を問診するとよくわかります。この質問表から2項目以上が該当する時，ビタミンB₁₂欠乏性貧血を考え，治療を始める事があります。

表2 ビタミンB₁₂欠乏の自覚症状

倦怠感，たちくらみ
動悸，呼吸速迫
顔面蒼白
舌痛，口内炎
出血傾向，アザがしやすい
胃不快と体重減少
便秘や下痢
頭痛

終わりに

鉄欠乏性貧血，Hb6.0以下では治療開始前から「ビタミンB₁₂」などが低下傾向にあり，鉄剤治療後にビタミンB₁₂が低値となります。丁寧な問診(表2)もその診断に有用です。

文献

1. 山本佳奈：貧血大国・日本光文社新書
2016年4月初版

表1

症例	年齢	性別	Hb	MCV	ferritin	Vit.B ₁₂	葉酸	貧血原因
1	45	女性	4.6	51.9	1.1	352	7.5	子宮腺筋症，子宮筋腫
2	48	女性	5.4	55.4	1.2	153	3.4	過多月経
3	46	女性	5.4	55	2.7	346	5.3	子宮筋腫
4	44	女性	5.7	60.2	2.3	322	5.4	過多月経
5	40	女性	5.8	54.7	4.5	303	4.4	毎日飲酒
6	44	女性	5.9	53.8	1.7	284	10.3	過多月経
7	47	女性	6	60.3	3.8	217	3.3	子宮内膜症